

令和3年度 冬季一般入学者選抜
法律科目試験
論文式（憲法，民法，刑法）試験問題

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子は6枚綴り、問題は片面に印刷されています。
試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、頁の落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
3. 解答用紙には、解答欄のほかに、科目欄と受験番号欄があります。
 - (1)科目欄 「憲法」「民法」「刑法」と記入してください。
 - (2)受験番号欄 受験番号を記入してください。正しく記入されていない場合は、採点されないことがあります。
4. 解答は、配られた解答用紙に、第1面の左欄，右欄，第2面の左欄，右欄の順に、記入してください。解答欄が足りなくなっても、解答用紙を追加配布することはありません。
5. 解答用紙に定められた以外のことを記入した場合は、解答が無効になります。
6. 解答用紙への記入は、ボールペン又は万年筆（インクは、黒，青，ブルーブラックに限り、また、プラスチック製消しゴム等で消せないものに限る。）を使用してください。解答を訂正するときは、削除したい部分は一本線で消し、付け加えたい部分は分かりやすく記入してください。
7. 試験中、試験室で使用できる用具は、上記筆記用具のほか、下書き用に黒色の鉛筆，シャーペンシル，プラスチック製消しゴム，携帯用鉛筆削り，時計（計時機能だけのもの），眼鏡です。ラインマーカー，下敷きは使用できません。時計のアラーム，携帯電話等は電源を切ってください。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 途中退席はできません。気分が悪くなった場合等は手を挙げて監督者の指示に従ってください。
10. 解答用紙は回収しますので、試験を放棄する場合も持ち帰らないでください。
11. 問題冊子は持ち帰ってください。

目 次

憲 法	1
民 法	2
刑 法	3

憲法

次の【事実】に含まれる憲法問題について論じなさい。なお、表現の自由の問題は取り上げないことにする。(配点：50)

【事実】

近年、Y市では住宅街に派手な外装の風俗案内所が設営されるケースが増えており、その付近には一目で風俗関係の人と見られるような者らが集まるようになっていた。そのため、付近住民から、子供の教育上良くないから規制してほしいという要望がY市に寄せられていた。

そこでY市はY市風俗案内所規制条例(以下「本件条例」という。)を制定した。本件条例は、風俗案内所の弊害を防いで青少年の健全な育成をはかり、市民の安全で安心な生活環境を確保するために、学校と児童福祉施設の敷地から200メートル以内の区域における風俗案内所の営業を禁止し、違反者に対する刑罰規定を設けた。原告(X)は風俗案内所を営んだことにより本件条例2条違反の罪で逮捕・勾留され、起訴猶予処分を受けた。Xは、本件条例2条が憲法上の権利を侵害するとし、風俗案内所の営業を再開するために本件条例2条が違憲無効であるとして訴訟を提起した。

【Y市風俗案内所規制条例】

第1条 この条例は、風俗案内所に起因する市民に著しく不安を覚えさせ、又は不快の念を起こさせる行為、犯罪を助長する行為等に対し必要な規制を行うことにより、青少年の健全な育成を図るとともに、市民の安全で安心な生活環境を確保することを目的とする。

第2条 風俗案内所は、次に掲げる施設の敷地から200メートル以内の区域において営んではならない。

- (1) 小学校、中学校、高等学校
- (2) 児童福祉施設

第3条 前条の規定に違反した者は、6月以下の懲役又は30万円以下の罰金に処する。

【出題趣旨】

青少年保護を理由とする風俗案内所の距離制限の合憲性を考える問題である。本件条例の合憲性につき、①営業の自由、②青少年保護を理由とした規制目的の正当性、③目的と手段の関連性(距離制限の合理性など)を論述できているかどうかを判断する。

民法

次の【事実】を踏まえて設問に解答しなさい。

【事実】

Aは、Bに対して金銭債務を負っている。この債務に係る債権を担保することを目的として、Aは、Bのために、Aの所有する甲土地とその上に存する乙建物のいずれにも第1順位の抵当権を設定し、その旨の登記をした（以下、甲土地の抵当権を「 α 抵当権」、乙建物の抵当権を「 β 抵当権」という。）。

ところが、乙建物が滅失し、 β 抵当権も消滅してしまった。乙建物が滅失したのは、Aが勝手に乙建物を取り壊したからである。その後、Aは、Cとの間で、Aを注文者、Cを請負人として請負契約を締結し甲土地上に丙建物を建築することを合意した。Cは、自ら必要な材料を提供し、丙建物を完成させた。AC間の請負契約において、丙建物の完成時まで請負代金の80%を支払い、引渡し時に残りの20%を支払うこととされていた。

そうこうしているうちに、AがBに対する債務の弁済を怠ったため α 抵当権が実行されて、Dが買受人となり甲土地の所有権を取得し、その登記を経由した。

〔設問〕

以下の(1)(2)の場合におけるAとDの間の甲土地の利用に関する法律関係を論じなさい。(配点：50)

(1) Aは、Cに対して、請負代金の80%を支払っていたが、残りの20%の支払いが済んでおらず、丙建物の引渡しを受けていない。丙建物の保存登記は、まだなされていない。

(2) Aは、Cに対して請負代金の全額を支払い、丙建物の引渡しを受け、その登記を取得したが、すぐに丙建物をEに贈与した。丙建物の登記は、依然としてAにある。

【出題趣旨】

本問題は、①共同抵当の目的たる建物が取り壊されて、同じ土地上に建物が再築されたが、この再築された建物について法定地上権が成立せず、②その敷地たる土地の買受人(D)がその所有権に基づく物権的請求権を行使して建物取去土地明渡請求をするに際して、③その請求の相手方をAとしてよいか、といったことを検討させるものである。③を検討する際には、丙建物の所有者が誰であるか、ということに注意を払う必要がある。丙建物について【事実】や〔設問〕の(1)(2)で示される事情、すなわち、請負契約の存在とその内容、請負代金の支払い状況、登記の所在といった事情は、この点に関わる。

刑法

次の【事実】における甲の罪責を論じなさい（特別法違反の点を除く。）。（配点：50）

【事実】

大学生甲（男性，21歳，法学部以外に在籍）は，高校時代からバンドで演奏活動をしてきたのだが，近所に住んでいるAという青年（男性）が「バンドで活躍している」ことを聞き知り，Aと2人で音楽について深く語り合いたいと考え付いた。ちょうど，大学の音楽サークルでの友人B（法学部在籍）から「成年に達した人については，営利，わいせつなどの目的がなければ，誘拐しても罪にならない」と聞かされていたので，「Aさんが来る気になりそうなイベントをでっち上げて，Aさんを誘い出し，親戚の別荘に連れて行って，そこで飲み食いしながら話してみよう」と思い付いた。Aは，実際には16歳の高校生なのだが，非常に大人びた容貌のため，しばしば20歳を超えていると間違えられるのである。甲も，Aは自分より年長だと考えていた。

甲は，ある日の午後5時過ぎ，Aの家の近くを歩いていたAに「大学のバンドの紹介で，Cさん（有名なアーティスト）と会う約束をしているのだけれど，Aさんも来ませんか」と話し掛け，Aが「え，本当ですか。是非会いたいです」と言ったので，そのまま自家用車にAを乗せて，親戚の別荘（甲，Aの居住地から50kmほど離れたところにある。）に連れて行った。その別荘は，甲の親戚Dが所有しているが，Dとその家族が使っていないときは甲も宿泊に使ってよいとDから言われて玄関の鍵も預かっていたものであり，ただ，屋内で火気を使わないこと，2階にあるDの個室には入らないこと，の2つの条件は必ず守るようにと言われていた。

別荘に着いて2時間程度の間，途中で買ったハンバーガーを2人で食べ，缶コーヒーを飲んで，好きな演奏家の話をしたが，やがてAが「Cさんは，いつ来るんですか」，「もう少し時間がかかるのであれば，僕の高校のバンド友達も呼んでいいですか」と言い始めた。Aが「高校」と言ったのを聞いて甲が「Aさん，大人じゃないんですか」と言うと，Aは「まだ16歳ですよ」と笑うのだが，甲は罪を犯してしまったのではないかと恐ろしくなり，「早く，家に帰ろうよ。Cさんも，今日は都合が悪いらしいから」と，Aに家に戻るよう説得し始めた。しかしAは，「Cさんが来なくても，甲さんと音楽の話ができるなんて，すごいと思います。今晚，泊まっていいですよ」と言った。甲としては，Aが後日「甲さんに騙（だま）されて連れて行かれた」と言われることがないよう，この日が楽しい思い出となるように努め，別荘の冷凍庫の中にあつた賞味期限内の焼豚などの食材を台所のコンロで

焼くなどして飲み食いしたうえで、夜遅くまで音楽の話で盛り上がり、翌朝、甲の車でそれぞれ自宅に帰って行った。

【出題趣旨】

未成年者を成人と誤信して誘拐したという客体に関する抽象的事実の錯誤の事例について、未遂犯を含めた適切な処理ができるかを評価する。

他人の別荘の使用に関する行為については、邸宅侵入罪を論ずるものも多いかと思われるが、さらに横領罪について、その性質（領得行為説と越権行為説の争い）をどう理解し、その点をどの要件に結びつけるかが、大きな論点となる。さらに、客体（別荘か、冷凍食材か、など）、実行行為などの各要件をどう認定して事案の処理をするか、といった点についても評価する。

そのほか、事案に即した財産犯の解釈、適用の能力も、併せて評価する。